

(2) 社会

ア 個々の問題の概要及びその通過率

— 評価の観点 —
 思考・判断・表現：社会的な思考・判断・表現
 技能：観察・資料活用の技能
 知識・理解：社会的事象についての知識・理解

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)			
3 ・ 4 学 年	(4)アイ	1	(1)	資料を正しく読み取り、必要な資料を選択することができる。	思考・判断 表現	70.0	88.4	
			①	資料から火事の件数を読み取ることができる。	技能	60.0	43.0	
		(2)	②	資料から消防署で働く人の緊急に対処する体制を読み取ることができる。	技能	60.0	54.4	
	(3)アイ	2	(1)	看板の内容を正しく読み取り、行動と結果を考慮することができる。	思考・判断 表現	70.0	68.1	
			(2)	資源ごみを収集する理由を考慮することができる。	思考・判断 表現	70.0	74.2	
	(5)ウ	3	(1)	①	資料からため池を作るきっかけを読み取ることができる。	技能	60.0	85.7
				②	資料からため池が完成するまでの年数を読み取ることができる。	技能	60.0	42.1
			(2)	ため池の完成によって地域の人々の生活が向上したことを考えることができる。	思考・判断 表現	70.0	80.3	
	(1)ア	4	(1)	縮尺を使って実際の目的地を探すことができる。	技能	60.0	70.6	
			(2)	田、畑、果樹園を表す地図記号を理解している。	知識・理解	60.0	66.1	
			(3)	およその位置を、八方位を用いて指摘することができる。	技能	60.0	66.4	
			(4)	工場が海に近くに集まっている理由を考慮することができる。	思考・判断 表現	60.0	35.3	
(6)アイ	5	(1)	平面図から断面図を読み取ることができる。	技能	60.0	86.9		
		6	(1)	東北新幹線と結び付けて都や県名を読み取り、書くことができる。	知識・理解	70.0	61.2	
			(2)	国土と新幹線の様子と結び付けて理解している。	知識・理解	70.0	78.8	
			(3)	資料から新幹線や高速道路の様子を読み取ることができる。	思考・判断 表現	70.0	82.8	
		7	(2)	①	青森県の東側の半島の名前(下北半島)を理解している。	知識・理解	60.0	62.4
				②	白地図と結び付けて世界自然遺産(白神山地)を指摘することができる。	知識・理解	60.0	83.4
				③	白地図と結び付けて県庁所在地(青森市)を指摘することができる。	知識・理解	70.0	80.2
(5)ア	8	(1)	①	道具の変化による生活の変化(電化製品)を理解している。	知識・理解	70.0	61.5	
			②	道具の変化による生活の変化(生活が便利になってきた)を理解している。	知識・理解	90.0	93.9	
		(2)	絵年表の作り方を考えることができる。	技能	70.0	81.4		
(3)	道具の変化と自分の生活と結び付けて考えることができる。	思考・判断 表現	70.0	79.3				
5 学 年	(2)ア	9	(1)	①	米づくりの仕事の内容を理解している。	知識・理解	60.0	73.7
				②	米づくりの仕事の内容を理解している。	知識・理解	60.0	71.8
			(2)	地形図から、稲作に適している土地条件を読み取ることができる。	技能	80.0	82.8	
		(3)	「品種改良」を理解している。	知識・理解	50.0	62.2		
	(1)ア	10	(1)	①	地図上の経線を理解している。	知識・理解	60.0	61.4
				②	地図上の緯線を理解している。	知識・理解	60.0	61.3
				③	地図から、日本の地球上の位置を読み取ることができる。	技能	60.0	76.0
			(2)	①	地図から、大陸から見た日本の位置を読み取ることができる。	技能	60.0	72.9
				②	地図から、日本の周りの海洋を読み取ることができる。	技能	70.0	71.9
				(3)	①	世界の主な国の名称を理解している。(オーストラリア)	知識・理解	70.0
②	世界の主な国の名称を理解している。(アメリカ合衆国)	知識・理解	70.0		69.4			

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内					
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	(1)	くらしを守る工夫における資料の選択	70.0	88.3	88.3	88.4	87.7	89.3	85.6	87.1	
	(2)	①	火事の件数の差の読み取り	60.0	42.1	42.3	40.3	41.4	40.3	47.4	39.2
		②	消防署の仕事の時間の読み取り	60.0	56.6	56.6	56.4	50.4	54.2	47.4	47.8
2	(1)	ごみ収集における資料の読み取り	70.0	70.2	70.8	61.3	63.9	64.5	60.8	64.9	
	(2)	資源ごみを収集する理由の指摘	70.0	74.4	74.9	67.4	75.1	77.4	72.5	74.1	
3	(1)	①	ため池をつくるきっかけの読み取り	60.0	85.9	86.4	78.5	84.9	88.8	82.5	81.8
		②	ため池完成までの年数の読み取り	60.0	42.3	42.7	35.9	44.2	48.5	48.1	36.9
	(2)	ため池完成による人々の生活の向上の読み取り	70.0	78.1	77.8	82.3	80.6	81.6	85.2	76.5	
4	(1)	縮尺を使った距離の算出	60.0	70.8	70.7	71.8	69.5	73.8	66.7	66.3	
	(2)	地図記号とまちの様子を理解	60.0	64.2	64.1	65.7	69.3	68.6	73.2	67.8	
	(3)	八方位を用いた位置の指摘	60.0	64.2	63.9	68.0	64.7	69.7	60.8	61.2	
	(4)	工場の土地利用の様子を読み取り	60.0	37.0	37.3	33.7	30.7	31.0	24.1	34.3	
5		平面図と断面図の読み取り	60.0	87.5	87.5	86.7	85.4	86.5	81.1	86.7	
6	(1)	都や県名の名称と位置の理解	70.0	58.6	58.6	59.1	58.3	57.8	58.8	58.8	
	(2)	国土の様子を理解	70.0	78.1	78.2	75.7	79.6	79.7	84.2	76.7	
	(3)	新幹線や高速道路の様子を読み取り	70.0	81.5	81.7	78.5	80.4	80.4	83.2	78.8	
7	(1)	下北半島の理解	60.0	60.7	60.3	65.7	60.1	62.2	59.1	58.4	
	(2)	①	白神山地の理解	60.0	83.5	83.3	85.1	84.2	82.2	83.8	86.7
		②	県庁所在地（青森市）の理解	70.0	81.8	81.5	85.1	80.4	79.7	79.7	81.6
	③	漁港（八戸市）の理解	60.0	83.0	82.8	85.6	84.0	82.9	86.6	83.7	
8	(1)	①	道具と生活の変化（電化製品）の理解	70.0	61.5	61.5	62.4	67.1	71.7	68.7	60.8
		②	生活が便利になってきたことの理解	90.0	94.1	94.1	93.4	93.7	95.9	92.4	92.0
	(2)	絵年表の作り方	70.0	81.4	81.4	81.2	78.2	77.7	81.1	76.9	
	(3)	道具の変化による生活の変化の読み取り	70.0	80.4	80.8	75.1	83.2	89.8	85.2	74.5	
9	(1)	①	米づくりの仕事の内容（代かき）の理解	60.0	72.5	72.0	80.1	74.4	74.8	72.2	75.3
		②	米づくりの仕事の内容（水管理）の理解	60.0	71.4	71.4	71.7	72.4	72.4	75.1	70.8
	(2)	米づくりと土地条件の関連の読み取り	80.0	82.0	82.2	78.6	82.2	83.0	83.8	80.6	
	(3)	「品種改良」の理解	50.0	59.8	59.1	71.1	63.3	67.9	66.1	57.2	
10	(1)	①	「経線」の理解	60.0	58.9	58.6	63.0	61.0	64.9	59.5	57.3
		②	「緯線」の理解	60.0	58.8	58.5	63.5	60.7	64.7	59.1	56.9
	(2)	①	日本の地球上の位置の読み取り	60.0	74.5	74.3	78.5	76.0	75.8	82.1	72.7
		②	大陸から見た日本の位置の読み取り	60.0	73.1	72.7	78.5	70.4	71.7	68.7	70.0
		③	海洋の読み取り	70.0	70.5	70.2	75.7	71.7	73.3	73.9	68.6
	(3)	①	世界の主な国の名称（オーストラリア）の理解	70.0	74.1	74.1	74.6	76.2	77.0	75.9	75.5
②		世界の主な国の名称（アメリカ合衆国）の理解	70.0	68.9	69.2	65.2	67.4	66.5	74.9	63.9	
教 科 全 体			65.1	70.6	70.6	70.9	70.6	72.1	71.1	68.7	

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
88.1	87.1	88.5	90.3	90.8	88.5	90.5	86.1	88.2	87.9	87.9	88.0	89.1	88.7	90.3	88.4
44.7	44.9	42.4	46.2	45.2	41.7	48.0	36.2	40.0	48.2	51.7	35.3	43.0	43.6	40.7	43.0
54.5	54.4	55.6	52.5	55.9	51.6	51.1	49.9	52.7	53.4	53.9	51.3	56.1	56.3	55.4	54.4
66.9	66.8	65.4	67.6	68.4	67.3	71.6	71.9	62.7	65.6	66.0	64.0	70.3	70.0	71.4	68.1
72.4	72.0	71.5	74.2	73.9	76.6	78.8	78.2	74.5	73.0	72.6	74.7	73.5	73.1	75.1	74.2
86.4	86.1	84.4	87.3	89.7	86.4	91.2	83.0	84.8	82.5	83.7	78.0	85.6	85.6	85.8	85.7
43.5	43.3	42.9	44.1	44.5	40.5	45.8	37.2	38.5	40.2	41.0	37.3	41.6	41.8	40.7	42.1
81.3	81.4	75.8	84.6	84.2	81.8	85.5	77.2	81.5	77.6	77.7	77.3	81.0	80.7	82.2	80.3
69.3	69.3	70.0	69.9	68.0	71.8	79.7	67.6	68.6	67.4	66.9	69.3	71.9	72.2	71.0	70.6
62.7	64.0	63.4	59.2	58.5	68.5	74.5	64.5	66.5	62.1	64.4	54.0	68.6	67.5	72.7	66.1
63.7	63.1	64.6	62.9	67.3	71.6	77.1	68.6	69.5	66.1	65.3	69.3	68.1	68.0	68.3	66.4
32.8	32.5	25.9	39.8	35.7	30.8	31.7	35.5	28.3	20.4	21.9	14.7	44.5	41.4	56.4	35.3
85.4	84.9	86.2	84.3	87.9	89.3	90.4	87.5	89.3	85.8	86.3	84.0	87.0	86.6	88.6	86.9
63.0	63.1	59.9	65.6	64.0	58.0	62.7	56.1	55.9	60.1	61.4	55.3	65.8	65.8	66.1	61.2
78.8	77.8	81.3	80.9	79.0	77.8	82.4	79.1	74.3	77.9	80.1	70.0	80.0	79.8	80.8	78.8
81.6	80.5	82.4	83.3	84.6	85.5	88.4	84.4	84.1	84.9	84.8	85.3	84.0	83.8	84.9	82.8
60.2	64.4	58.5	48.8	51.8	63.7	67.6	61.2	62.3	85.9	86.8	82.7	60.5	62.4	53.1	62.4
82.7	83.7	81.3	78.6	84.2	84.0	87.9	84.7	81.2	83.5	83.0	85.3	83.1	82.5	85.6	83.4
79.1	79.9	79.3	75.6	78.3	80.0	83.7	78.7	78.2	78.0	79.5	72.7	80.0	79.6	81.5	80.2
84.2	84.2	84.7	82.6	85.7	85.5	87.9	83.5	84.8	83.8	85.4	78.0	84.9	84.7	85.9	84.3
60.4	62.5	51.0	61.2	60.3	59.2	59.6	64.0	56.9	57.5	59.0	52.0	62.5	61.3	66.9	61.5
94.6	94.4	93.7	94.6	96.3	93.8	96.2	93.0	92.5	95.4	95.2	96.0	93.2	93.4	92.4	93.9
79.5	80.4	75.8	79.9	78.7	81.1	80.7	78.4	82.5	84.6	84.5	85.3	84.0	84.3	82.9	81.4
78.6	78.1	72.3	82.6	84.9	79.7	85.8	74.8	77.9	77.9	77.1	80.7	76.9	75.5	82.4	79.3
72.4	70.4	73.4	75.6	78.3	76.5	81.7	70.3	75.8	71.7	71.7	72.0	74.6	72.9	81.9	73.7
70.4	70.5	68.5	70.2	72.1	70.3	77.3	69.2	66.2	70.6	70.2	72.0	74.2	73.8	76.0	71.8
82.5	81.3	84.4	81.9	87.1	83.8	87.8	77.5	84.1	83.2	84.6	78.0	83.4	82.7	86.2	82.8
62.0	62.8	57.8	60.5	64.3	64.4	71.3	66.0	59.6	63.6	65.3	57.3	62.7	63.0	61.1	62.2
61.6	59.9	61.1	67.2	65.1	62.6	67.3	62.6	59.7	66.1	65.1	70.0	61.8	60.6	66.4	61.4
61.7	60.2	61.1	66.6	65.1	62.4	67.2	62.1	59.6	66.0	64.9	70.0	61.7	60.6	66.1	61.3
72.8	71.5	73.5	73.9	78.3	80.0	82.8	76.5	79.8	80.8	83.0	72.7	76.1	75.5	78.3	76.0
70.8	70.8	68.6	71.2	72.8	76.5	79.6	76.3	74.6	76.2	76.4	75.3	72.2	71.7	74.2	72.9
70.5	70.6	70.6	69.2	71.0	75.3	78.1	76.3	73.1	77.8	79.0	73.3	70.7	70.0	73.4	71.9
73.0	72.7	68.0	79.6	74.3	79.9	84.3	77.5	78.2	75.8	78.8	64.7	75.3	75.5	74.2	75.5
69.1	69.4	64.6	74.6	67.3	71.4	74.8	68.1	70.7	70.0	70.7	67.3	69.4	69.8	68.0	69.4
70.3	70.2	68.8	71.1	71.8	71.9	75.7	70.4	70.2	71.5	72.2	69.0	71.9	71.5	73.3	71.1

ウ 内容別結果の概要

内 容	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容の 通過率(%)	設定通過率 (%)
人々の安全	3	1(1)	1(2)①、1(2)②	61.9	63.3
人々の生活	9	3(1)①、3(2)、 8(1)②、8(2)	3(1)②、8(1)①	74.1	70.0
地域の様子・ 青森県の特徴	12	5、6(3)、 7(2)①、7(2)③	4(4)、6(1)、 7(1)	71.5	63.3
食料生産	4	9(2)	9(3)	72.7	62.5
国土の環境	7		10(1)①、10(1)②	69.7	64.3

内容別にみると、県の平均通過率と比較して通過率が同程度だったのは、「人々の生活」、「地域の様子・青森県の特徴」、「食料生産」、「国土の環境」であり、通過率が低かったのは、「人々の安全」である。

設定通過率と比較すると、これを上回ったのは、「地域の様子・青森県の特徴」、「食料生産」、「国土の環境」であり、同程度だったのは、「人々の安全」、「人々の生活」である。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
社会的な 思考・判断・ 表現	7	1(1)、3(2)、 6(3)	4(4)	72.6	68.6
観察・資料活 用の技能	12	3(1)①、5、 8(2)、9(2)	1(2)①、1(2)②、 3(1)②、	69.4	63.3
社会的事象 についての 知識・理解	16	7(2)①、7(2)③、 8(1)②	6(1)、7(1)、 8(1)①、9(3)、 10(1)①、10(1)②	71.7	65.0

観点別にみると、県の平均通過率と比較して、どの観点も同程度であった。

設定通過率と比較すると、これを上回ったのは、「観察・資料活用の技能」、「社会的事象についての知識・理解」であり、同程度だったのは、「社会的な思考・判断・表現」である。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)
1 (2)①	43.0	60.0	50(12.5)、150(7.5)、100(6.0)、55(4.5)、5(3.5)
1 (2)②	54.4	60.0	8:30(11.5)、12(7.5)、14(4.0)、10(2.0)、 無答(2.0)、25(1.0)
3 (1)②	42.1	60.0	1年(28.0)、6年(5.0)、14年(4.5)、29年(4.5)、 5年(4.5)、1843年(3.5)
4 (4)	35.3	60.0	無答(21.0)、水が使えるから(16.5)、火事の時消せるから (1.5)、汚水を海に捨てられるから(1.5)
6 (1)	61.2	70.0	秋田県・山形県(12.0)、秋田県(9.5)、無答(3.0)、 山形県(2.0)、秋田・山形・東北(1.5)
8 (1)①	61.5	70.0	道具(12.0)、無答(3.0)、物(2.0)、便利(2.0)、楽(1.0)、 昔(1.0)

- 1 (2)①について

誤答の原因として、通過率が低いことから、まず棒グラフを読み取る力が不足していることが考えられる。また、「50」という誤答が多かったことから、2004年と比べる年を誤っていることが考えられる。

- 1 (2)②について

誤答の原因として、「8:30」の誤答が多かったことから、題意の読み取りが不十分であることが考えられる。

- 3 (1)②について

誤答の原因として、「1年」の誤答が多かったことから、資料3の年表の年とできごとの読み取りが不十分であることが考えられる。

- 4 (4)について

誤答の原因として、「無答」の誤答が多かったことから、土地利用は地形的な条件や社会的な条件ともかかわりがあることの理解が不十分であることが考えられる。

- 6 (1)について

誤答の原因として、「秋田県・山形県」の誤答が多いことから、地図上において東北新幹線と秋田・山形新幹線の路線を読み取れていないことや東北6県の名称と位置の理解が不十分であることが考えられる。

- 8 (1)①について

誤答の原因として、「道具」の誤答が多かったことから、題意の読み取りが不十分であることが考えられる。

カ 今後の指導について

内容別にみた課題としては、「人々の安全」の学習内容の定着が挙げられる。ここは、「資料から火事の件数を読み取ること」、「資料から消防署で働く人の緊急に対処する体制を読み取ること」をねらいとしていることから、資料活用能力育成のための指導が必要である。

評価の観点別にみた課題としては、「社会的な思考・判断・表現」の能力の向上が挙げられる。今後、「社会的な思考・判断・表現」の能力を育成するためには、基礎的・基本的な知識や技能を活用する学習活動に力を入れ、その中で論理や思考の基盤である言語活動を充実することが大切である。

学習指導要領の各学年の能力に関する目標も、これまでの「調べたことの表現」に加え、「考えたことの表現」を一層重視している。

【第3・4学年】	地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて、 <u>相手にもわかるように表現すること</u>
【第5・6学年】	社会的事象の意味について考えたことを、 <u>根拠や解釈を示しながら、図や文章などで表現し説明すること</u>

今後の学習指導においては、次のような点に留意した指導の工夫が望まれる。

指導例 「社会的な思考・判断・表現」の技能を高めるための言語活動の充実のポイント

1 言葉の役割を踏まえた指導の工夫

- (1) 社会に生きる人々の行為や相互のかかわりの様子をとらえる道具として活用
観察・調査や資料で見つかり読み取ったりした事実やその解釈などを、主として言葉に置き換え、記録したり発表させたりする。つまり、

児童に言葉を仲立ちとして事実の一部を切り取り、意味づけ・解釈を加えながら社会的事象をとらえさせていく。

- (2) 人々の行為や相互のかかわりの様子、出来事などの社会的な意味を考え、明らかにしていく思考を促進する道具として活用

(1)の過程を経た社会的事象を相互に比較し、共通点と相違点、願いと工夫、目的と手段などの関係に着目しながら事実を再構成させる。つまり、

思考操作を伴う学習活動を促進する上で、言葉を重要な役割と位置づける。

- (3) 他者とのコミュニケーションによって生まれる協働的な学びを支える道具として活用
(2)の過程でクラスの仲間と対話し、意見を交わし合う。自分と異なる見方や考え方ももつ他者と共に自分の考えや判断をより確かなものにさせる。つまり、

学び合いの過程で言葉を重要な役割と位置づける。

2 体験的な活動やそれに基づく表現活動の充実

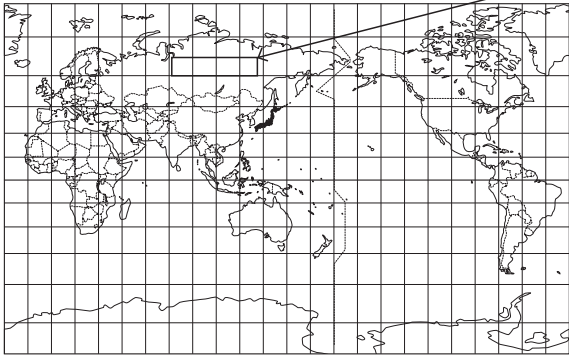

これまでの「表現」	<ul style="list-style-type: none"> ・体験が単純に「言語化」されたものが多かった。 ・ポスターや新聞づくりが獲得した情報をまとめていく「作業」や「整理」に留まっていた。
これからの「表現」	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことをまとめるだけでなく、整理した情報をもとに思考する学習過程を設定し、「思考の言語化」を意識する必要がある。 ・見学、体験した結果を解釈・分析し、説明したり論述したり討論したりレポートをまとめたりするなどの形で自己の考えを表現、主張させる。

個々の問題の誤答傾向からみた課題としては、昨年度同様、多様な誤答例があった。特に、「社会的事象についての知識・理解」の問題では、無答が多かった。

特に、新設された第5学年の内容「世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の

位置と領土」において、世界の主な国の名称（アメリカ合衆国）の理解が設定通過率を下回っているため、より一層資料の活用を図り、作業的な活動を工夫し、知識・理解の定着を図る指導を工夫することが大切である。

今後の学習指導においては、指導の改善の具体策として、次のような地図帳や地球儀の継続的な使用、白地図作業など多様な学習活動の工夫が望まれる。

指導例	世界の中の国土 展開例	(カードを置く)
大陸と海洋を調べ、白地図にカードを置こう。		<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">ユーラシア大陸</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">南アメリカ大陸</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">北アメリカ大陸</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">アフリカ大陸</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">オーストラリア大陸</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">南極大陸</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">太平洋</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">大西洋</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">インド洋</div> </div>
		<p>(学習環境の整備例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白地図作業 (いつでも使えるよう多めに印刷を) ・ 地名のカード化 (継続した活用を) ・ 地図帳の活用 (いつでも開けるように) ・ 地球儀の常備 (いつでも確認を) ・ 世界地図の常掲 (大陸と海洋等の明示)
(学習課題の例)		
		<ol style="list-style-type: none"> ① それぞれの大陸にはどんな国があるのかな。 ② 世界の中でのわが国はどの位置にあるのかな。 ③ わが国はどこまで広がっているのかな。

質問紙調査では、「社会の勉強が好きだ」と思っている児童が64.9% (前回63.8%)、「社会の授業が分かる」と思っている児童が68.6% (前回69.2%)と、いずれも前回並みであった。「社会の勉強は大切だ」と思っている児童が88.5% (前回87.8%)という実態と比較して、「社会の勉強が好きだ」、「社会の授業が分かる」と思っている児童が少ないことは、前回同様、依然として社会科の課題である。

今後の学習指導においては、「興味・関心を喚起するとともに、多様な学習活動を取り入れ、児童が主体的に学習問題を追究し、解決し、成就感を味わえる授業」を実践することが大切である。

キ まとめ

内容別にみると、「人々の生活」の定着が概ね良好である。一方、「人々の安全」の定着に不十分な点が認められる。また、評価の観点別では、「社会的な思考・判断・表現」の能力に不十分な点が認められる。

今後も、昨年度同様、基礎的資料などを活用する場面を授業に取り入れ、その活用能力を身に付けさせる指導をするとともに、子どもの実生活や発達段階に応じて系統立てて丁寧な指導をすることが必要である。

また、問題解決的な学習の充実のために、学習問題を吟味し、予想や学習計画を児童に立てさせるなど、児童が主体となった学習を進めるようにするとともに、基本的な用語については、定着を図るため、折に触れ、繰り返し指導することが求められる。

さらに、これらの学習を通じて得た知識や培った能力を以後の学習でも生かせるよう、指導の手立てを工夫する必要がある。